

日本学術会議

化学委員会・分析化学分科会（第25期・第8回）

議事録

日時：令和3年12月24日（金）15:50-16:50

場所：日本学術会議6階6-C(1)会議室およびオンライン併用（zoom）

出席者（11名）： 岡本 裕巳、玉田 薫*、栄長 泰明*、尾嶋 正治*、加藤 昌子*、斎藤 公
児*、佐藤 緑*、竹内 孝江*、谷口 功、藤本 俊幸*、宮崎 あかね*

*オンライン出席

欠席者（0名）

記録：竹内 孝江

配布資料：

資料番号なし 第25期化学委員会第8回分析化学分科会次第

参考資料 前回議事録（第7回分析化学分科会議事録）

議事

1) 前回分科会の議事録確認について

前回分科会の議事録はメール会議で全委員からすでに承認されており、事務局に提出済みであることが佐藤幹事から報告された。

「事務局に提出する議事録要旨は必ず全委員が承諾したものであること、全委員の所属は正しい所属であることを再確認すること」との事務局からの通達があったことが谷口委員長から説明され、これを確認した。

2) 日本学術会議主催学術フォーラムについて

谷口委員長から、日本学術会議主催学術フォーラム「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」（2021年11月11日オンライン開催）により、分析化学や分析科学技術を含む学術の果たしてきた役割やこれから果たすべき役割及び使命を社会貢献の視点から広く社会の皆様と共有できたとの総括があった。

また、日本学術会議は、カーボンニュートラルについて積極的に対応していき、今後、提言につなげていくためにフォーラムや連絡会議等を通して議論を行うこと、フォーラムの成果の広報については連絡会議と相談しながら進めていくことが説明された。

3) 今後の計画、特に、大型計画についての準備について

第 25 期においては、第 21 期以降行ってきたと同様の「マスタープラン」を策定しないことが午後の化学委員会全体講演で説明された。これは「マスタープラン」に対して個別分野に閉じた計画が多く、分野横断や学際的な取り組みが不十分であるとの内外からの意見を受け、ここで見直して日本の科学があるべき姿を目指した提言を出したいという方針であることが、岡本委員および加藤委員から説明された。

4) 今後の分科会での審議方針及び予定について

谷口委員長から今後の活動については 3 月を目途に議論したいとの予定の説明があった。今後の活動について各委員から以下の意見があった。

環境、医療、エネルギーなど他の委員会とも連携をして議論したい。

分析化学自体が分野横断なので、積極的に働きかけていきたい。

分野横断の組織を立ち上げることが可能か。課題別分科会で議論していくこともあり得る。

5) その他

竹内幹事から、「国際基礎科学年～持続可能な世界の発展のために～」(The International Year of Basics Sciences for Sustainable Development (IYBSSD)) に対する日本学術会議の取組みが次の通り報告された。日本学術会議は IYBSSD サポート機関として IYBSSD 国際運営委員会と協力して本国際年に呼応した国内の取組みを展開する。そのため、「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (IYBSSD2022) 連絡会議」を設置し、日本学術会議の関係する委員会・分科会の連携・調整を図り、日本学術会議による企画や情報発信を強化すること、本国際年期間中に学術フォーラムやシンポジウム等のイベントを開催するとともに関係機関等への周知を積極的に行うこととなったことが報告された。IYBSSD の期間は 2022 年 6 月 30 日～2023 年 6 月 30 日。

以上